Wish

ユニセフ兵庫ニュース

unicef

世界の子どもたちのために

vol.61
2020年5月号

長谷部誠日本ユニセフ協会大使とギリシャ難民キャンプの子どもたち

CONTENTS

2-3 EVENT REPORT ユニセフ 子どもスマホサミット in 神戸

4-5 特集 「ユニセフのつどい」によせて

6 活動ファイル 2020年1月～4月

7 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）へのユニセフの取り組み

8 お知らせ

EVENT
REPORT

ユニセフ 子どもスマホサミット in 神戸

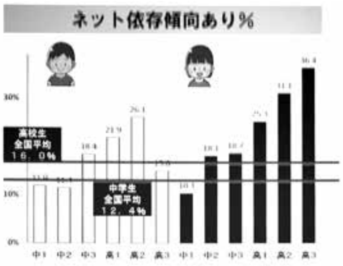
インターネットやスマートフォンは
今や私たちの生活に欠かせないものとなりつつあります。
ネット時代を生きる子どもたちが自由に語り、その声を聞いて、
ネットとの付き合い方を大人も一緒に考える機会を持ちました。

ユニセフはデジタル社会の急速な変化を受けて、インターネットが子どもたちにもたらす可能性と危険性の両方に着目し、次世代を担う子どもたちの声をデジタル技術に関わる大人の世界に反映させていく活動を進めてきました。

日本ユニセフ協会では、関西地区を中心に2011年より「スマホサミット」を展開しているソーシャルメディア研究会と協力し、昨年10月から福岡・熊本・茨城・三重・兵庫の各県で「ユニセフ・スマホサミット」を開催してきました。これはネットの信頼性、ネットでの出会いやいじめなどネット上の子どもの安心・安全を考えるテーマを開催地ごとに設け、デジタルネイティブとも呼ばれる若者自身がスマホやネットの問題点と解決策を話し合い、大人も共に語り合うものです。各地から寄せられた子どもたちの生の声による提言は、3月25日の公開オンライン会議で取りまとめられて、「国連子どもの権利委員会」に届けられます。

兵庫県でのテーマは「ネット依存」でした。午前は県内8校の中高生が4つの班に分かれて、事前に行われたスマホやネットの使い方についてのアンケート調査結果などを踏まえて議論しました。全体のファシリテーターはソーシャルメディア研究会代表の竹内和雄さんが務め、子どもたちの班には同研究会の大学生が入って発言を促しました。午後からはさまざまな立場の大人も参加し、各班にも大人が入って意見交換しながら進められました。調査結果や人気アプリの話題などを皆で共有した後、午前中のまとめの発表が行われ、それに対する参加者全員による投票ではどの班も良い評価を得られました。最後に議論の成果は各方面への提言にまとめられ、参加者の感想を聞いて閉会となりました。

竹内さんのテンポのいい問いかけに、会場の大人に臆することなく自分の意見を出していく中高生は皆、今の状況を変えなくてはという思いを持っていました。大人もネットのメリット・デメリットを知って、子どもと一緒に新しい文化を創っていく努力をしなければならないということを学んだ一日になりました。



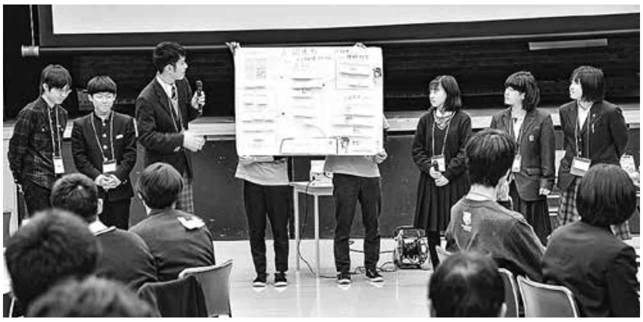
＜アンケート調査の結果＞

アンケート調査は兵庫県内のスマホサミット参加校で実施。811人から回答。

子どもたちは中学生になるとスマホを持ち始め、高校生では90％以上が持っている。パソコンも含めると普段からネットに接続しているのはほぼ全員。主に自宅で動画・ゲーム・会員制交流サイト（SNS）をしており、学年が上がるにつれて家で勉強をしなくなる。（ネットが使えない塾や図書館で勉強をしている）。高校生の約50％が3時間以上ネット接続しており、やめられずにイライラしたり、不安から逃げるために使ってしまう依存傾向にある子どもの率は全国平均より高い。

Event Data イベントデータ

日　時　2020 年 1 月 25 日（土）
会　場　コープこうべ生活文化センター （神戸市東灘区）
参加者　92 人（うち中高生 23 人）
主　催　兵庫県ユニセフ協会
後　援　兵庫県、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会
企画協力　竹内和雄さん（兵庫県立大学准教授・ソーシャルメディア研究会代表）
　　　　大谷美紀子さん（国連子どもの権利委員会委員・弁護士）



大人の意見

- 機械に振り回されるのは嫌だけど、そういう時代になっていく。だから機械に支配されるのでなく、よく知っている子どもたちが規範となって機械を支配するようになってもらいたい。
- 現状ではスマホが生きる拠り所になっている子もいるので、取り上げるというやり方ではなく、親子で話し合って、フィルタリングなどの機能を利用しながらルールを作っていくことが必要。
- 子どもはこうして作られたルールは守るし、自分でルールを作ることができる子どもは強い。

参加者の感想

- スマホに遊ばれている自分が恥ずかしい。これからは自分の意志で行動を変えていきたい。（子ども）
- スマホの危なさも楽しさもわかっている私たちがリーダーになって次の世代に伝えていきたい。（子ども）
- スマホが万能であるが故に悪用・依存してしまう面の多さを再実感させられた。今回の議題のように、自分たちになじみがあることに対して本気で向き合うと、中学生でもいろんな点に注目して話し合いができ、実生活や社会に生かせることもあると思うので、このような機会が増えてほしいと思った。（子ども）
- 自分の意見をしっかり言える中高生が多くてびっくりした。（子ども、大人）
- 親は子どものことをわかりたいと思っているから、もっと親と話をしてほしい。　（大人）
- 「魔法の板」（=スマホ）を渡す親もスマホについてしっかり学ばないといけないと思っている。（大人）

＜子どもたちが考えた問題点・解決策・提言＞

子どもたちはアンケート調査の結果と自分たちの日ごろの行動を照らし合わせて、ネット依存の問題点と解決策を出し合い、提言をまとめた。

問題点

- SNS・ゲーム・動画などをやっていると誘惑に負けて途中で止められず、時間の感覚がなくなってきて依存の自覚のないまま終わりのないループに入ってしまう。そのため睡眠や勉強の時間が減って健康や学力に影響が出てくる。
- 面と向かって話さないためコミュニケーション能力が低下するだけでなく、SNS 上でのけんか・いじめ、知らない人との危険な交流、匿名の悪口などの人間関係の問題が起こる。
- 使い方や情報に対して受け身になり自分で考えなくなるため、詐欺、フェイクニュース、個人情報漏洩、安易な課金などのトラブルに巻き込まれることもある。

解決策

- 正しい知識・危機感・距離感を持って自分の意志で使い方を見直す。例えばスマホの制限機能を活用して自分なりに時間制限したり、スマホ無しの日や時間などのルールを学校やグループで作ってみんなで協力して取り組む。
- スマホ以外のストレス発散法や興味を持てることを見つけて、スマホから離れる時間を持つ。

提言

国・自治体へ

- 外で遊べる場所が欲しい。スマホ無しの楽しいキャンプなどをしてほしい（先生・企業へも）。
- 自分たちの意見も取り入れた目安や法律を作ってほしい（歩きスマホ禁止、スマホ免許、スマホ税など）。

先生へ

- 少人数で道徳的な内容を話し合うような、スマホの使い方の授業をしてほしい。
- 納得できる根拠のあるルール作りをしてほしい。

親へ

- スマホの使い方や危険性の知識を身につけてほしい。
- もっと面と向かって話したい。意見を聞いて。勘違いしないで。客観的な意見を聞かせて。

企業へ

- 課金を手軽にできないようにしてほしい。
- 個人情報漏洩、フェイクニュース拡散など起きないよう情報の大切さを再認識してほしい。

自分たちへ

- メリットとデメリットを知って危機感を持つ。
- 客観的な意見を聞きながら、自分たちでルールを考える。
- 小さい子どもや親に教えることで自分自身も学んでいく。

全体へ

- 自分の利益だけを考えず、相手の立場も考える。

特集
「ユニセフのつどい」によせて

ユニセフのつどいは、「世界のともだちと心をつなごう」というテーマのもと、子どもたちの未来に想いを寄せるたくさんの人々が、毎年一回一堂に会し、笑顔で学び語り合う一日。歌や踊りや演奏のパフォーマンス、ユニセフ活動に携わっている人の話、国の内外で活動されている人たちとのふれあい、世界各国を支援するグッズの販売など、世代を超えた人たちで賑わいます。
しかし、今年は新型コロナウイルス感染拡大という事態を受け、不特定多数の参加者が想定されるイベントであることから残念ながら開催中止となりました。
ここでは、予定していたプログラムと、参加予定の団体などを紹介します。

Data イベントデータ

日　時　2020年3月14日（土）
会　場　コープこうべ生活文化センター
主　催　兵庫県ユニセフ協会
協　賛　神戸YMCA、神戸YWCA
後　援　兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、（公財）兵庫県国際交流協会、JICA関西、兵庫県子ども会連合会、コープこうべ

プログラム

午前の部
- ■オープニング
  神戸朝鮮高級学校吹奏楽部&舞踊部
- ■講演会
  「ユニセフの水・衛生支援の現場の姿」
  UNICEF民間連携専門官 / 元UNICEF南スーダン水・衛生担当官
  熊丸耕志さん
- ■募金贈呈式

フリータイム
- ■昼食 & 交流
- ■わくわくマルシェ
  国際交流等の団体活動紹介&販売

午後の部
- ■オープニング
  神戸市立なぎさ小学校合唱部
- ■ワークショップ
  平和を願う絵本『アネモネ戦争』
- ■クロージング

出展団体（順不同）

- ・CHAJAPAN
- ・国際住居研究会ソルト 学生支部
- ・NGOネパール「虹の家」
- ・NPO法人アマニ・ヤ・アフリカ
- ・NPO法人ルワンダの教育を考える会
- ・認定NPO法人FutureCode 学生部BYCS
- ・jam tun
- ・やんだくない
- ・賀川記念館
- ・石光商事株式会社
- ・チーム・アネモネ
- ・ウリハッキョ・オモニ会
- ・ミャンマー関西&神戸市立科学技術高等学校
- ・明石高専防災団D-PRO135°
- ・神戸YJB
- ・兵庫県ユニセフ協会

ありがとうございました
募金贈呈式

例年、贈呈いただく皆さんに募金への思いをお聞きしています。今回は、募金額を中心に紹介します。

◆伊藤ハム株式会社　13,906,984円
2020/1/1～2/29対象商品売上の一部と職員の皆さんからの募金
子ども未来プロジェクトとして

◆コープこうべユニオン　500,000円
職員の皆さんからの募金

◆コープこうべ　11,147,034円
12月の募金月間を中心に組合員の皆さんから寄せられた募金

●また、神戸市外国語大学国際法ゼミ、神戸市立鷹取中学校からもいただきました。

毎年、「ユニセフのつどい」でカンボジアの女性が作った手芸品を紹介している竹村さんにご自身の想いをつづっていただきました。

私とユニセフのつどい

竹村（たけむら） 彩花（あやか）さん
CHA JAPAN
(Cambodian Handicraft Association)

毎年「ユニセフのつどい」へ参加することは私にとっての「原点回帰」となっています。それは、2010年に休学してカンボジアへ滞在し、CHAで共同生活を行った時の報告をこの場でしたことが、今の活動を続けるひとつの道筋となったからです。

2000年、地雷被害者やポリオによる女性の障害者が裁縫技術を得るために設立されたCHA。スキルトレーニング以外にも、料理・掃除・洗濯などの家事やクメール語・英語も学ぶことができ、自立した際に必要な生きる力を養うプログラムとなっています。「多くの障害者が家だけで生きることを余儀なくされ、生活に希望を失い、その環境から抜け出すことができないカンボジア社会を変えたい」という想いを貫く彼女たちの姿を見て、私も続けることの大切さを感じ、現在はCHA JAPANとして日本での商品販売や広報などを行っています。

ネックレスを手にとって「きれい！」「コーディネートにぴったり」などお声をいただくことが彼女たちへの最高の褒め言葉。仕事を通して、自信と希望を与えることは明日への生きる原動力です。これからも微力ながら活動を続けることで、ひとりでも多くのカンボジアの女性障害者が社会で活躍できることを願っています。

来年はまた「ユニセフのつどい」で皆さんにお会いできることを楽しみにしております。

カラフルで魅力的な商品

絵本 アネモネ戦争

ワークショップで取り上げる予定だった絵本『アネモネ戦争』を紹介します。

絵本（発行人 島田誠、発行所 蝙蝠舎）は、限定500部をギャラリー島田と一部書店で取り扱っています。

戦争という言葉が使われていますが、これは深く平和を願う絵本です。この絵本の原型は、上村亮太さんがかつて制作した1冊のアートブック。それを出版するという企画が神戸のギャラリーを中心に起こり、多くのサポーターの力が製作費となりました。その過程の中で、アート作品の奥底に秘められていたメッセージは、よりくっきりした形へと変貌していき、この絵本が誕生したのです。

『アネモネ戦争』は、アネモネを独り占めしようと戦争を起こす王様と、それを黙認してしまう人びとの中から一人の少女が声をあげるストーリー。「それこそが〝戦争〟だったのです」という言葉が重く響きます。

長年、絵本の編集を手がけてきた松田素子さんは「この絵本は、まさに〈いま〉、届けなくてはならないものになった」と言います。「一人ひとりという小さな点も、それがつながり、面となり、力に変わるとき、何かが動くと信じたい。小さな祈りの積み重なりこそが、世界を変えることを信じたい」と――。

「いい絵本ですね。いい絵本になりましたね・・・」

完成したばかりの絵本を開きながら、上村さんは、繰り返しそう呟（つぶや）いていました。

このメッセージのバトンを、さらに広く、深く、だれかに届ける。私たちはそんな一人になれるでしょうか。

上村（うえむら） 亮太（りょうた）さん
美術家

1959年神戸市生まれ。阪神淡路大震災を経て、モノクロ抽象画から具象画を描くようになる。『アネモネ戦争』は上村さんにとっては初の絵本。

講演会 ユニセフの水・衛生支援の現場の姿

熊丸さんはこれまでザンビア・エチオピア・ソマリア・南スーダンなどで水・衛生事業に尽力してきました。講演会では、支援の届きにくい地域や紛争地帯で出会った子どもたちや母親の姿から見えてくる現場の様子と、気候変動や都市化など世界の喫緊（きっきん）の課題について話していただく予定でした。

熊丸 耕志 さん
UNICEF 民間連携専門官
/ 元 UNICEF 南スーダン
水・衛生担当官

Activities File
活動ファイル

兵庫県ユニセフ協会の活動履歴
2020 年 1 月～ 4 月

活 動 一 覧
Activities List

学習会訪問一覧

月日	訪問先	対象	人数
1月30日	くらんど人権文化事業「わくわくまつりの創造」(宝塚市)	小学1～6年生	25
2月 1日	みんなの尼崎大学	大人	7
2月24日	ボーイスカウト神戸第2団	小学生～大人	40

地域活動一覧
※新型コロナウイルス感染拡大という事態を受け中止延期になった活動
＊ブース出展

月日	イベント名	
1月10-24日	ユニセフ写真展「すべての子どもに、夢を」長谷部誠日本ユニセフ協会大使ギリシャ難民キャンプ訪問(神戸市中央区)	
1月25日	ユニセフ 子どもスマホサミット in 神戸	
2月～3月	カレンダー募金	
2月 9日	2020ユニセフカップ 神戸バレンタイン・ラブラン	＊
2月24日	SDGsアクションフォーラム(神戸市東灘区)	
3月 1日	※ コープファミリーフェスタ(西宮市)	
3月 7日	※ 祭 in すみよし	
3月14日	※ ユニセフのつどい	
3月15日	※ 神戸国際交流フェア	
4月12日	※ 2020ユニセフカップ 芦屋さくらファンラン	
4月25日	※ 国際理解講座①	

1 ユニセフ写真展
「すべての子どもに、夢を」
長谷部誠日本ユニセフ協会大使
ギリシャ難民キャンプ訪問

期　間　1月10日(金)～24日(金)
会　場　ひょうごご国際プラザ交流ギャラリー(神戸市中央区)
共　催　公益財団法人 兵庫県国際交流協会

2015 年に始まった " 欧州難民危機 "。紛争や暴力から逃れ、ヨーロッパを目指して中東やアフリカから殺到する人々が最初にたどり着く国の一つがギリシャです。ドイツのサッカーチームに所属し、難民や移民の子どもたちをドイツの街で多く目にしていた長谷部選手は、2018 年 11 月ギリシャの難民キャンプ 2 ヵ所を訪ねました。写真に写る子どもたちは辛い境遇にあっても笑顔で夢や希望を語り、元気にサッカーをしています。その笑顔の奥にある悲しみに触れた長谷部選手は、同じ地球上の現実の問題として日本の人々にも関心を持ってもらい、子どもの未来のために共にできることを考えていきたい、と語っていました。

2 2020 ユニセフカップ
神戸バレンタイン・ラブラン

日　時　2月9日(日)
会　場　神戸ポートアイランド市民広場

「戦争、災害、貧困に苦しむ子どもたちに愛の手を！」をテーマに、ユニセフの活動を支援するチャリティーレースが今年も開催され、市民ランナーが冬のミナト神戸を駆け抜けました。主催のサンケイスポーツ、産経新聞社から参加料の一部を寄付していただきました。またブースでは 1 個につき 10 円が募金となるパンの販売もしました。ご協力ありがとうございました。

＊4 月 12 日(日)に予定していました 2020 ユニセフカップ芦屋さくらファンランは、新型コロナウイルスの感染の広がりに伴い開催が中止されました。主催のサンケイスポーツ、産経新聞社から参加料の一部を世界の子どもたちの教育支援のためにユニセフへ寄付していただきました。

募金していただいた学校・団体 (2019 年 11 月～ 2020 年 2 月)

兵庫県ユニセフ協会を通して募金していただいた学校・団体のお名前を記載しています。(敬称略、順不同)

渦森台福祉サークル、兵庫県いなみ野学園大学自治会福祉保健委員会、㈱産業経済新聞社、宝塚ボランティアセンター、ガールスカウト兵庫県第9団、(社福)イエス団友愛幼児園、生活文化センター茶道教室、A-Bridge Cup事務局、五洋港運㈱、サークルティータイム、港島自治連合協議会、啓明学院
外貨募金:西宮ホワイトライオンズ、JICA関西

ご協力ありがとうございました。

3 カレンダー募金

日　時　2月～3月
会　場　コープこうべ生活文化センターなど

文具専門店伊東屋から寄付されたカレンダーを、今年も格安で提供。売り上げは全て「カレンダー募金」としてユニセフに贈りました。ありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）へのユニセフの取り組み

© UNICEF/UNI315509/Ongoro

© UNICEF/UNI309714/ Ölçer

▲ 南スーダンで、予防接種のために子どもを連れてきた母親たちに、コロナウイルス感染予防の方法について伝える保健スタッフ。

◀ トルコ・パザルクレには、国境を越えてギリシャを目指す移民・難民が集まる。(2020 年 3 月 7 日撮影)

COVID-19 は、世界的に拡大し、紛争や自然災害、気候変動によって既に人道的な危機に直面していた国々にも広がり、死の脅威をもたらしています。

国連の人道支援担当チーフは、脆弱な国々の COVID-19 対応を支援しなかった場合、何百万人もの人々の命がリスクにさらされ、さらにウイルスが世界中を巡る可能性があると警告しています。また、国連事務総長は、世界が COVID-19 という国境を知らない「共通の敵」に立ち向かうことに集中するため、世界のあらゆる場所での即時停戦を呼びかけました。

ユニセフは、WHO をはじめ国連組織全体と連携しながら行動計画を立て、以前から医療体制が脆弱な途上国において命の危険にさらされている子どもたちへの支援活動を重点的に進めています。

1. 子どもの健康を保つ
2. 子どもたちの継続した学びを支援する
3. 子どものいる家庭を支援する
4. 暴力、搾取、虐待から子どもを守る
5. 弱い立場に置かれた子どもに水と衛生の支援を提供する
6. 難民や移民の子ども、紛争の影響を受ける子どもたちを保護する

世界的な人道支援の始動を受け、日本ユニセフ協会は新型コロナウイルスの緊急募金の受け付けを開始しました。

Column コラム　　知ることからはじめよう

水と衛生

▲ 手洗いのポイントは 6 つ

水のはなし

日本では蛇口をひねれば安全な水を使えますが、世界では 3 人に 1 人が安全な水を飲むことができません。池や川、整備されていない井戸などの水を飲み、下痢による脱水症に苦しみながら亡くなる子どもが後を絶ちません。

問題はそれだけではありません。家族のために毎日長時間を水汲みに費やす子どもの多くは、教育を受ける機会を失い、一生貧困から抜け出せなくなってしまいます。

きれいな水があれば子どもたちの命と未来を守ることができます。ユニセフは水支援の一つとして手押しポンプ付きの深井戸を掘っています。アフリカでは人工衛星を利用して地下水脈を探り当て、干ばつが起きても枯れない数百メートル級の深井戸を掘ることもあります。

深井戸はきれいな水を安定的に供給できます。地表に降った雨水は、地層の中の大小さまざまなすき間を通るうちに不純物も取り除かれ、地表からは見えない川、地下水脈に到達します。井戸が深いほどきれいな水を汲み上げることができるのです。

30 億人が家で手洗いできず

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) のパンデミックが起きています。石けんを使った正しい手洗いは、病気の特効薬にはなりませんが、コロナウイルスなどから身を守る最も安価で効果的な方法です。しかし、世界人口の 40％に当たる 30 億人は家で手洗いができません。

ユニセフは 2030 年までに、世界中すべての子どもが身近な場所できれいな水を使えるようになることを目指して活動しています。きれいな水を使って石けんで正しく手洗いができるといいですね。

ユニセフ募金 *Donations For Unicef*

通常募金

通信欄記載事項	振替口座	手数料
K1-280 兵庫	00190-5-31000	免除

緊急・復興募金

	通信欄記載事項	振替口座
ロヒンギャ難民	ロヒンギャ K1-280 兵庫	00190-5-31000
シリア	シリア K1-280 兵庫	00190-5-31000
アフリカ栄養危機	アフリカ K1-280 兵庫	00190-5-31000
自然災害	自然災害 K1-280 兵庫	00190-5-31000
人道危機	人道危機 K1-280 兵庫	00190-5-31000
新型コロナウイルス	コロナ K1-280 兵庫	00190-5-31000

＊共通口座名義：公益財団法人 日本ユニセフ協会
＊手数料免除

モバイルユニセフ・クレジットカード募金

モバイルユニセフのクレジットカード募金ならいつでもどこでも、気軽に募金ができます。

https://www.unicef.or.jp/mb/bokin.html

Wish vol.61

ユニセフ兵庫ニュース

ユニセフ兵庫ニュース Wish

2020 年 5 月発行

発　行：兵庫県ユニセフ協会

住　所：〒658-0081
神戸市東灘区田中町 5-3-18
コープこうべ生活文化センター 4F

電　話：078-435-1605（平日 10:00 ～ 16:00）

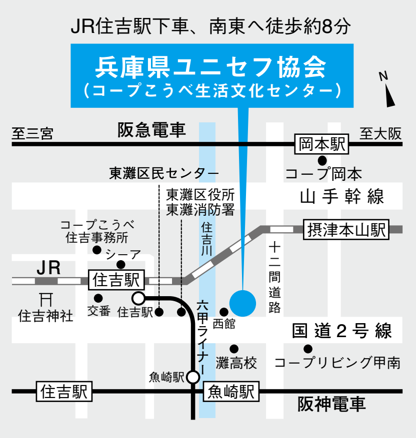
ＦＡＸ：078-451-9830

E-Mail：h-unicef@kobe.coop.or.jp

●最新の情報はホームページで
http://www.office-bit.com/unicef-hyogo/

兵庫　ユニセフ　検索

●兵庫県ユニセフ協会への案内図



Join Us 主催イベント

各日程は変更になることがあります。
詳細は HP をご覧ください。

参加費無料

2020ユニセフセミナー（オンライン開催）「環境に対する子どもの権利」を保障する子どもの権利条約新議定書

日時　5月16日（土）13:00 ～ 14:30
講師　森田明彦さん（元日本ユニセフ協会広報室長）

人が自分らしい人生を実現するためには「安全」「健康」な環境は不可欠です。21 世紀における子どもの権利の最後のフロンティアである「子どもの環境権」。SDGs の最新の動きとの関連も含めて学んでいきましょう! Zoom アプリを用いて行うセミナーです。参加ご希望の方は事務局までご連絡ください。手順など詳細をお知らせします。

国際理解講座③ 戦争の現場から見えてきたもの ～シリアやアフガニスタンの女性や子どもたち

日時　7 月 4 日（土）13:30 ～ 15:30
会場　あしや市民活動センター（リードあしや）
講師　玉本英子さん（アジアプレス所属）
ゲスト　西垣敬子さん（宝塚アフガニスタン友好協会代表）
共催　コープこうべ第 2 地区本部

2019 年春、過激派組織ISはシリアの支配拠点を失いました。しかし、現地は安定したのでしょうか。
玉本さんの報告を中心に、ゲストには幼い頃に戦争を体験され、これまで 42 回アフガニスタンに通い、支援活動を続けてこられた西垣さんを迎えます。
今年は戦後 75 年、改めて戦争について一緒に考えませんか。

体験してみよう!実験してみよう! ユニセフ水の教室

日時　8月8日（土）
会場　国営明石海峡公園神戸地区 あいな里山公園（神戸市北区）
定員　20 人（小学 4 ～ 6 年生）
共催　あいな里山公園、兵庫県ユニセフ協会

自然豊かなあいな里山公園での、水をテーマとした学習会です。水運びや泥水のろ過実験を通して、毎日私たちが当たり前のように使っている水について一緒に学んでみましょう。
里山には、水生生物や昆虫もたくさんいます!!

ユニセフシアター 映画上映会＆講演会

日時　9月5日（土）
会場　未定
講師　岡 真理さん（京都大学大学院人間・環境学研究科教授）

映画『プロミス』（2001 年）は、ヨルダン川西岸とエルサレムのイスラエル周辺のパレスチナ人コミュニティに住む 7 人の子どもたちの視点から、イスラエルとパレスチナの対立を描いたドキュメンタリーです。上映後にトークもあります。
※これは、（公財）兵庫県国際交流協会民間国際交流助成事業です。

2020「国際理解講座」の予定

①	4/25 ※延期	「新しい紛争解決」 永井陽右
②	6/20 ※延期	「地球のステージ」＆トーク 桑山紀彦 × 永遠瑠マリールイズ
③	7/4	「戦争の現場から見えてきたもの」 玉本英子 × 西垣敬子
④	11/14	「トークセッション」 大津司郎＆甲斐信好＆早川千晶

新型コロナウイルス感染症の今後の動向により、延期・中止させていただく場合があります。参加ご希望の方は必ず事前にウェブなどでご確認下さい。

お申込み、お問い合わせ先　事務局　078-435-1605

兵庫県ユニセフ協会の設立前から多大なご尽力をいただいた、前会長の竹本成徳（しげのり）さんがご逝去されました（2020 年4月1日）。
自らの被ばく体験を語る中で、いのちの大切さや人の心の痛みを伝え続けてくださった竹本さん。
いつも温かく大きく深く私たちを見守ってくださっていた竹本さん。
心からご冥福をお祈りいたします。